

# はーもにい

★★ 男女共同参画情報誌「はーもにい」No.41 ★★  
 令和3年2月発行 ★ 東大和市 市民部 地域振興課  
 TEL042(563)2111 ★ fax 042(563)5931  
 E-mail : chiikisinko@city.higashiyamato.lg.jp  
 ★ 「はーもにい」に対するご意見・ご感想をお寄せください

男女共同参画社会とは「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」です。



## 女性が輝く社会とは？

- ・ 幼少期から学ぶ政治
  - ・ 保育活動の中で選挙ポスターを作り、子どもたちに模擬体験させることで、選挙とは何かを学ばせる機会を作っている。
  - ・ 多くの人が政治に参加することに当事者意識を持っているので、投票率が高い。
  - ・ 女性リーダーの多さは、国や自治体への信頼感となり、持続可能な国造りに反映されていると思う。

### 幼少期から学ぶ政治

今回の「はーもにい」は、幸福度調査で世界トップレベルの北欧デンマークに注目しました。デンマークでは女性が生き生きと働きながら子育てをしています。それを可能にしている労働制度や保育・教育などを参考に、日本の課題を知り、女性活躍の推進のヒントを得るため、デンマーク在住の日本人女性2人による著書『デンマークの女性が輝いているわけ』を読み、意見交換を行いました。

そこで出た感想をキーワードごとにまとめましたので、以下にご紹介します。

## デンマークからのメッセージ 女性の「生き方」「働き方」

## デンマークってどんな国？

ヨーロッパの国の1つであり、北ヨーロッパのバルト海と北海に挟まれたユトランド半島、その周辺の数々の島を含めた立憲君主制国家です。政治経済と社会的国民意識とのバランスがよく取れている国。有名高級磁器ブランドの「ロイヤル・コペンハーゲン」は1775年に開業し、2015年に240周年を迎えた老舗。童話作家アンデルセンの祖国、首都コペンハーゲンには「人魚姫」の銅像が佇んでいる。

首都：コペンハーゲン  
 面積：43,094km<sup>2</sup>  
 （日本の九州とほぼ同じ）  
 人口：5,822,763人（2019年）  
 合計特殊出生率 1.73%  
 （日本は 1.42%）（2018年）  
 社会：税率が高いかわりに福祉関係が充実している。  
 世界幸福度ランキング 2020 2位（日本は62位）  
 ジェンダーギャップ指数 14位  
 （日本は121位）（2020年）  
 政治：女性の社会進出が活発で、現在、首相と国会議員の約4割が女性。

- ・ 「資源」「イコール」「人」
  - ・ 戦争に負けたことで、「国の再建は人的資源を高める教育」として、「人」を重視したことはすごい。
  - ・ 「人材こそ資源」の思想が共有されている。
- ・ たくさん話し合う！
  - ・ デンマーク流デモクラシー
    - ・ 保育園の活動を、子ども達自身による話し合いで決めることで、民主主義を学ばせている。
    - ・ 学校教育も「褒めて育てる」中で自己肯定感を育て、自分で考え決断し、責任ある行動を促している。
    - ・ 「学校の主人公は子ども」と考えるため、学校理事会のメンバーには必ず生徒が参加している。

## デンマークの女性史

1871年/明治4年	デンマーク女性連盟が設立される。
1875年/明治8年	女性の大学入学が許可される。
1901年/明治34年	女性工場労働者に有給で4週間の産休が認められる。
1908年/明治41年	女性に地方選挙権が認められる。
1912年/大正1年	結婚の誓いから「妻は夫に従い」の言葉が削除される。
1914~1918年/ 大正3年~7年	第一次世界大戦 デンマークはほぼ中立保持。
1915年/大正4年	女性に国政選挙権が認められる。
1919年/大正8年	女性公務員の同一賃金法が制定される。
1921年/大正10年	公務員の同一労働法が制定される。
1924年/大正13年	初の女性大臣誕生：ニナ・バング（Nina Bang）文部大臣。
1939年/昭和14年	中絶法が施行される。
1940~1945年/ 昭和15年~20年	第二次世界大戦中、デンマークがナチスドイツ軍に占領されていた時期。
1966年/昭和41年	避妊薬ピルの自由化。
1968年/昭和43年	国民登録法により中央個人登録制を導入。
1973年/昭和48年	人工中絶法施行。
1978年/昭和53年	男女均一労働法の施行。
1982年/昭和57年	夫婦別姓が認められる。
それ以前は、女性が結婚すれば自動的に夫の姓に変更されましたが、法律の改正により、既婚女性に姓の選択が認められるようになりました。現在では、旧姓を保持する女性が非常に多く、姓だけではその人が婚姻関係にあるのか、同棲関係にあるのかは判断しかねます。しかしデンマークでは、婚姻関係にあるか否かは、あくまでも当事者の問題であって、親も含めて他人がとやかくいう事柄ではないのです。	
1983年/昭和58年	所得税申告制度が改正され、既婚女性の個別納税が認められる。
1984年/昭和59年	男性の出産育児休暇取得が可能。
デンマークの産休、育休の歴史を振り返ってみると、まず1901年に、女性の工場労働者に支援金つきで4週間の出産静養日を取ることが可能になったことからはじまります。時を経て1984年には、母親だけでなく、父親にも出産後2週間の産休に加えて、子どもが生後15週から24週目の間に、母親に変わって最大10週間まで育休がとれるようになりました。	
2002年/平成14年	産休・育児休暇法の改正で産休・育休が52週間に改正された。
2007年/平成19年	親権法が改正され、両親がそれぞれ親権を得ることが可能になった。

### 共働きはあたりまえ

- ・ 女性の社会進出が活発になったのは、未就学児の保育に関する法律が制定されたことが大きいと思う。
- ・ 女性の自立が生き方を含め、ワーク・ライフ・バランスを前向きにとらえ生涯貫く姿に共感と感動。
- ・ 日本には無い子育て中の女性が、一時的にフルタイムからパートタイムに移ることが可能な仕組み。
- ・ 女性の多い職場は、産休・育児関連のコスト負担がかさむ悩みがあり、不公平さを減少させるために、労使協定で中央出産基金が設立された。
- ・ フルタイムは日本では週40時間であるが、デンマークでは、時代とともに短縮され、今では週37時間となっている。
- ・ 雇用契約を雇用主と労働者間で結び、毎年、内容の見直しを行っているため、子育て真っ最中の女性は働きやすい。

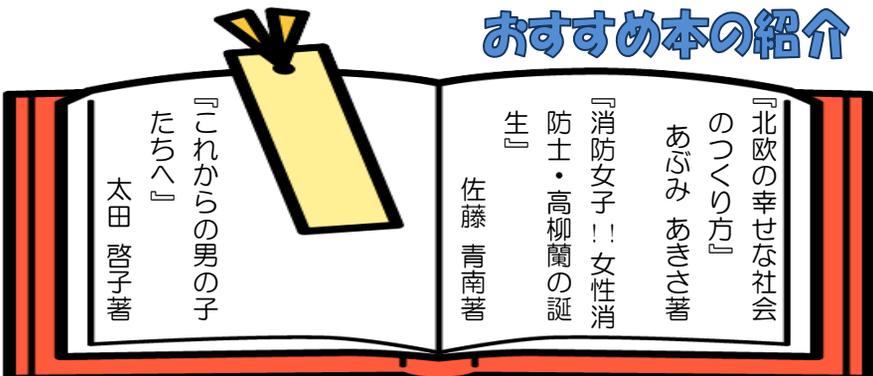
## 女性が生きやすい、そこは男性も生きやすい

意見交換会を終えて・・・  
 男女共同参画は、世界規模のグローバルな課題であり、デンマークでは、夫婦間で平等、協働を実現しており、出産・育児も分かち合っており、生活している。女性は人生の様々な節目において、自然体で気負うことなく、自己決定を尊重する生き方、そして社会からも選択を認められていることに誇りを持っている。

日本では、まだまだ男性の育児・家事への参加は消極的で、女性が一人で受け止めている状況が強く、「人として誰もが声をあげること」「自分の人生は自分で決めること」が大切である。

今回、この本を通じてデンマークを知り、それができるデンマークは素敵な国だと感じた。

### おすすめ本の紹介



# 東大和市男女共同参画川柳 歴代川柳最優秀賞作品



市では、平成13年2月に「東大和市男女共同参画都市宣言」を行い、平成17年3月に「東大和市男女平等を基本とした男女共同参画の推進に関する条例」を公布・施行しました。男女が性別にかかわらず個人として尊重され、その個性と能力を發揮し、社会のあらゆる分野で対等に参画できる社会の実現を目指しています。

「男女共同参画」について、より多くの市民の皆様を知っていただき、また身近に感じていただけるよう、平成17年度から男女共同参画に関する川柳を募集してきました。これまでの間、9歳から90歳までの幅広い年齢の方々から延べ4696句の応募がありました。

今回、第1回から第15回までの応募の中から選ばれた最優秀賞作品をご紹介します。

第1回（平成17年度）  
また言った 「女のくせに」は 古いくせ  
60代 男性

第2回（平成18年度）  
「男だろ!!」 時代おくれを また発見  
中学3年生 男性

第3回（平成19年度）  
ゴミ出しに 背広姿が ごあいさつ  
80代 女性

第4回（平成20年度）  
照れるけど エプロン姿 父可愛い  
中学3年生 女性

第5回（平成21年度）  
消防士 父は家でも 家事仕事  
中学3年生 女性

第6回（平成22年度）  
働く場 夫は地球で 妻宇宙  
30代 男性

第7回（平成23年度）  
好きなもの 「おやじの味」と言う時代  
40代 女性

第8回（平成24年度）  
女子会で ほろよい妻を お迎えに  
40代 男性

第9回（平成25年度）  
父さんと 呼ばれて戻り ゴミお願い  
50代 男性

第10回（平成26年度）  
主婦と主夫 どちらも選べる 時代かな  
20代 男性

第11回（平成27年度）  
保育園 お迎えどっち？と 聞く子供  
30代 女性

平成17年度に実施した第1回と翌年度の第2回の最優秀川柳では、「女のくせに」や「男だろ!!」といった「昔ながら」、「時代おくれ」な性別による固定的な役割分担意識に対する皮肉が込められていました。その後の平成19年度第3回以降から、昨年度の第15回に至るまで、その年の世相を反映させつつ、ゴミ出しや料理などの「家事」や、保育園のお迎えなどの「育児」に取り組む男性の姿を微笑ましく詠われた川柳が最優秀賞に選出されています。これら最優秀賞の川柳の作者は、一定の年代や性別に偏ることなく、様々な老若男女の皆さんが受賞しており、少しずつではありますが、男女の皆さんが受賞しており、少しずつではありますが、男女の皆さんが受賞していることを感じます。

第12回（平成28年度）  
ごみ出し日 通勤経路と 違う道  
40代 男性

第13回（平成29年度）  
イクボスを 実践するパパ ママぞっこん  
80代 男性

第14回（平成30年度）  
パパとママ 育児リレーで 金メダル  
60代 男性

第15回（平成31年度）  
ママチャリの 前後に我が子 パパが漕ぐ  
70代 女性